

2015年度 ルール・マニュアルテスト 問題傾向

福岡県バスケットボール協会/審判委員会
2015/8/1

◆ 問題の内容が正しければ○を、誤りがあれば×を解答欄に記入して下さい。

No.	問題	解答
1	ボールをコントロールしているプレイヤーを防御するときは、防御側プレイヤーは相手の速さと距離を十分に考慮して防御の位置を占めなければならない。	
2	2人の審判がほとんど同時にヴァイオレイションとアンスポーツマン・ライク・ファウルを宣し、ヴァイオレイションが先に起こったと確認した場合は、アンスポーツマン・ライク・ファウルはなかったものとする。	
3	攻撃側チームがショットではなくパスしたボールが相手チームのリングに触れ、そのあと最初に、それまでボールをコントロールしていたチームがボールを持った場合は、ショット・クロックは24秒にリセットされる。	
4	ダブル・ファウルが宣せられたとき、一方のプレイヤーのパーソナル・ファウルがたとえアンスポーツマン・ライク・ファウルとして記録されたとしても、そのファウルの罰則としてはフリースローは与えない。	
5	最後のフリースローで、フリースロー・シューターの相手のチームにヴァイオレイションが宣せられてフリースローのやりなおしをする場合は、どちらのチームにもタイム・アウトは認められる。	
6	プレ・ゲーム・カンファレンスを行わない場合は、通常よりも早めにコートに出て、プレイヤーのゲーム開始前のウォーム・アップにより、各チームの特徴を分析するよう心がける。	
7	攻撃側プレイヤーが、両足ともセンター・ラインとフロント・コートの床に触れている状態でバック・コートの味方からパスを受け取った。このとき、両足は完全にフロント・コートの床に触れていないので、ボールをフロント・コートに進めたことにはならないが、ボールはフロント・コートでコントロールされていることになる。	
8	5回のファウルを宣せられて、ベンチにすわっているチーム・メンバーは、チーム・ベンチ・パーソネルに含まれる。	
9	アウト・オブ・バウンズにいるB5が、コート内でボールを持っているA5に触れた。審判は、B5にアウト・オブ・バウンズのヴァイオレイションを宣した。	
10	プログレッシング・ウィズ・ザ・ボールの規定について、空中でボールを受け取って、片足で床に下りた。そのひと続きの動作で床につけた足で踏み切って、次に両足同時に床に下りた。そのあとパスかショットをするために、片足を床から離してもよい。	

2015年度 ルール・マニュアルテスト 問題傾向

福岡県バスケットボール協会/審判委員会
2015/8/1

◆ 問題の内容が正しければ○を、誤りがあれば×を解答欄に記入して下さい。

No.	問題	解答
11	ゲームの開始予定時刻の5分以上前までにスコアシートにサインをするのは、どちらのチームのコーチが先にしてもよい。	
12	ドリブルをしている間、ボールが手に触れていないときにはドリブラーには足の動かし方や歩数についての制限はない。	
13	ファイトイングの規定を適用されたプレイヤーは失格・退場になる。	
14	第2ピリオドを始めるスロー・インでボールがコート内のプレイヤーに触れる前にファウルやヴァイオリションが宣せられた。このとき、どちらのチームにも交代は認められる。	
15	フロント・コートでコントロールしているプレイヤーがボールをパスし、ボールがそのコートのリング触れた。ボールはそのまま、どちらのチームのプレイヤーにも触れずにバック・コートに転がった。そのボールをそれまで攻撃していたチームのプレイヤーがバック・コートで最初に触れた場合、規則に違反してボールをバック・コートに戻すヴァイオリションになる。	
16	スロー・インのボールがコート内のプレイヤーに触れる前にリングに触れたときはヴァイオリションである。	
17	スコアシートに記入するタイム・アウトの記録は、そのチームのタイム・アウトの枠に残り時間(分)を数字で記録する。	
18	ツー・パーソン・システム(2人審判制)において、どのような場合でも、ゴールの成否を確認するのはトレイル・オフィシャルの重要な任務である。	
19	スロー・インをするプレイヤーがボールを投げずに、コート内のプレイヤーに手渡した場合はヴァイオリションである。	
20	フリースロー・シューターを間違えて2個のフリースローを行い、2個とも成功した。その後、処置の訂正ができる時機にシューターの誤りに気づき、その誤ったフリースローと得点を取り消し、正しいフリースロー・シューターにフリースローを与えて処置の訂正をした。	

2015年度 ルール・マニュアルテスト 問題傾向

福岡県バスケットボール協会/審判委員会
2015/8/1

◆ 問題の内容が正しければ○を、誤りがあれば×を解答欄に記入して下さい。

No.	問題	解答
21	ゲーム開始後、コーチが確認したプレイヤーと違うプレイヤーが出場していることが見つかった場合、コーチが確認したプレイヤーと交代しなければならない。	
22	チームBのプレイヤーにアンスポーツマン・ライク・ファウルが宣せられた。チームAがその罰則で与えられたフリースローは2個とも成功した。そのあとセンターラインのアウト・オブ・バウンズからのスロー・インで再開するとき、ショット・クロックは14秒にリセットされる。	
23	第1ピリオドを始めるジャンプボールで、ジャンパーにタップされたボールをどちらかのチームのプレイヤーがコントロールする前にチームAにファウルが宣せられた場合は、ポゼッション・アローはファウルが宣せられたチームAの攻撃する方向を示す。	
24	ボールをコントロールしているチームAのフロント・コートで防御側チームのプレイヤーが負傷したため審判はゲームを止めた。このときショット・クロックは15秒を示していたが、相手チーム(防御側)に原因がある理由でゲームを止めたので、チームAのスロー・インでゲームを再開するとき、ショット・クロックは24秒にリセットする。	
25	第2ピリオドを始めるスロー・インでボールがコート内のプレイヤーに触れる前にファウルやヴァイオレイションが宣せられた。このとき、どちらのチームにもタイム・アウトは認められる。	
26	チャージングとは、ボールを持っていてもいなくても、無理に進行して相手チームのプレイヤーのトルソー(胴体)に突き当たったり押しつけたりする不当なからだの触れ合いのことをいう。	
27	正当に防御しているB5の手を、A5が手ではらいのけてショットした。審判はA5のイリーガル・ユース・オブ・ハンズと判断したが、ノー・チャージ・セミサークル・エリア内の行為だったので、ファウルは宣しなかった。	
28	ショット動作中のA3のボールが手から離れる前に、別の場所で、B4がA4にファウルをした。そののち、ショットしたボールはバスケットを通過した。このゴールによる得点は認められる。	
29	チームAのフロント・コートでA5がコントロールしているボールをB6がこぶしでたたき出し、審判はヴァイオレイションを宣した。このときショット・クロックは17秒を示していた。このあとチームAのスロー・インで再開する際、ショット・クロックは17秒からはかりはじめる。	
30	攻撃側プレイヤーが持っているボールに、防御側プレイヤーがしっかりと片手または両手をかけたとき、ボールを持っているプレイヤーの足がトラヴェリングの規定をこえて動いてしまっても、ヴァイオレイションとはせず、ジャンプボール・シチュエーション(ヘルド・ボール)になる。	

2015年度 ルール・マニュアルテスト 問題傾向

福岡県バスケットボール協会/審判委員会
2015/8/1

◆ 問題の内容が正しければ○を、誤りがあれば×を解答欄に記入して下さい。

No.	問題	解答
31	相手チームのプレイヤーを押さえて行動の自由を妨げる不当なからだの触れ合いのことをホールディングという。 相手を押さえることは、からだのどの部分を使ってもホールディングになる。	
32	ショット動作中のA6の手からボールが離れる前にB5がリングをつかんで振動させボールがバスケットに入るのを妨げた。審判はB5にテクニカル・ファウルを宣した。	
33	フロント・コートに進められたボールがバック・コートに戻り、ボールをチーム・コントロールしているチームのプレイヤーが、そのボールにバック・コートで最初に触れても、そのチームがフロント・コートでチーム・コントロールしていなければ、違反してボールをバック・コートに戻すヴァイオレーションにはならない。	
34	審判がちがうチーム(チームB)にオルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インを与えてしまった。スロー・インされたボールをB4が受け取り、ドリブルをしている途中でスロー・インの誤りに気づいた。まだ処置の訂正ができる時機だったので、審判は、誤ったスロー・インを訂正し、チームAにスロー・インを与えてゲームを再開した。	
35	ゲーム開始予告時刻から15分が過ぎてもプレイをする用意のととのったプレイヤーが5人そろわなかった場合はゲームの没収になる。	
36	オルタネイティング・ポゼション・ルールで、チームAにスロー・インのボールが与えられ、そのスロー・インが終わる前に、チームAのプレイヤーにファウルが宣せられた。次に、ジャンプ・ボール・シチュエーションになったときオルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インのボールが与えられるのは、チームAの相手チームである。	
37	プレイヤーがボールを持ったまま床にたおれたり、床にたおれた勢いでボールを持ったまま床をすべるとはトラヴェリングのヴァイオレーションではない。	
38	空中にいるシューターのショットの動作は、ショットしようとしたプレイヤーの手からボールが離れたときに終わる。	
39	ダブル・ファウルが宣せられ、それまでボールをコントロールしていたチームに引き続きスロー・インのボールがバック・コートで与えられるときは、8秒は継続してかぞえられる。	
40	ショットされたボールが空中にある間に、審判の笛や競技時間の終了の合図が鳴っても、その瞬間にボールはデッドにはならない。	

2015年度 ルール・マニュアルテスト 問題傾向

福岡県バスケットボール協会/審判委員会
2015/8/1

◆ 問題の内容が正しければ○を、誤りがあれば×を解答欄に記入して下さい。

No.	問題	解答
41	ツー・パーソン・システム(2人審判制)の場合、10人のプレーヤーを2人の審判の視野の中に入れておくため、つねに両審判が対角線上の位置を占めることを‘ボクシング・イン’という。	
42	A5のショット動作中にB6がショットを妨げる行為をし、B6にテクニカル・ファウルが宣せられた。この罰則により与えられるフリースローは、相手チームのどのチーム・メンバーがフリースロー・シューターとなってもよい。	
43	パーソナル・ファウルで、故意に触れ合いを起こす行為はアンスポーツマン・ライク・ファウルである。	
44	審判はそれぞれ独自に判定をくだす権限をもつ。また、主審と副審は同じ任務と権限でゲームを進行する。	
45	コーチのテクニカル・ファウルはチーム・ファウルにかぞえない。	
46	A5がショットしたボールがリングに触れずに落下し、そのボールをA6がタップして、ボールはバック・コートに転がった。そのあとそのボールに、バック・コートでA4が最初に触れた。このときショット・クロックは7秒を表示していた。審判は、規則に違反してボールをバック・コートに返すヴァイオレーションを宣した。	
47	テクニカル・ファウルの罰則で、フリースローのあと、センター・ラインのアウト・オブ・バウンズでA5にスロー・インのボールが与えられた。A5は1mを超えない範囲でフロント・コート側に移動し、バック・コートにいるA4にスロー・インをした。	
48	第4ピリオド残り1分50秒のとき、バック・コートでドリブルをしているA5がB5にファウルをされた。このときチームAにタイム・アウトが認められた。そののちゲームはフロント・コートのスロー・イン・ラインの位置からチームAのスロー・インによって再開されるが、このときショット・クロックは24秒にリセットされる。	
49	チームからタイム・アウトの請求があったときは、タイマーはタイム・アウトが認められる時機に合図器具を鳴らして審判に知らせる。	
50	最後のフリースローのとき、フリースロー・シューターやリバウンドの位置を占めた両チームのプレーヤーがヴァイオレーションをした場合は、ジャンプ・ボール・シチュエーションになる。	

2015年度 ルール・マニュアルテスト 問題傾向

福岡県バスケットボール協会/審判委員会
2015/8/1

◆ 問題の内容が正しければ○を、誤りがあれば×を解答欄に記入して下さい。

No.	問題	解答
51	正当な防御の位置を占めたプレイヤーは負傷を避けるためや衝撃をやわらげるために、その場(シリンダーの内側)で向きを変えて相手に背を向けてもさしつかえない。	
52	各チームが前半に攻撃するバスケットは、相手チームのチーム・ベンチのあるほうのバスケットであるが、ゲーム前に両チームの話し合いで双方が了解した場合は、チーム・ベンチ、バスケット、あるいはその両方を交換することができる。	
53	プレイのインターバル中のチーム・メンバーのテクニカル・ファウルはチーム・ファウルにかぞえられる。	
54	1プレイヤーにテクニカル・ファウルが2回記録されたときは、そのプレイヤーは失格・退場になるが、この場合、ディスクォリファイング・ファウル(失格・退場)になるので、この罰則で相手チームに与えられるフリースローの数は2個である。	
55	ボールの状態はライブかあるいはデッドかのどちらかである。	
56	プレイヤーは、布やソフト・プラスチックあるいはゴムでつくられた、幅5cm以下の単色のヘッド・バンドを身のつけてもさしつかえない。	
57	スリー・パーソン・システム(3人審判制)において、バック・コートのエンド・ラインからスロー・インが行われるときは、いつでも自分とバスケットの間にスロー・インするプレイヤーがいるように位置し、スロー・インのボールを与える。	
58	ファウルとは、規則に対する違反のうち相手チームのプレイヤーとの間の不当なからだの触れ合いおよび、スポーツマンらしくない行為をいう。	
59	ノー・チャージ・セミサークルのラインはノー・チャージ・セミサークル・エリアには含まれない。	
60	A4にトラヴェリングが宣せられた。 チームBのスロー・インをするプレイヤーに審判がボールを与える前に、B4にパーソナル・ファウルが宣せられた。 この場合、ジャンプ・ボール・シチュエーションになり、ゲームはオルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インで再開される。	

2015年度 ルール・マニュアルテスト 問題傾向

福岡県バスケットボール協会/審判委員会
2015/8/1

◆ 問題の内容が正しければ○を、誤りがあれば×を解答欄に記入して下さい。

No.	問題	解答
61	ジャンプ・ボールでトス・アップされたボールは、ジャンパーにタップされた(触れた)瞬間にライブになる。	
62	Tシャツを着用する場合は、ユニフォームからはみ出さないものでなければならない。	
63	ショットされたボールが空中にある間にショット・クロックの合図が鳴り、そのうちそのボールが最高点に達し、落ち始めてからボール全体がリングより高いところにある間に、防御側のプレイヤーがそのボールに触れたときは、ゴール・テンディングのヴァイオレイションになる。	
64	タイム・アウトの請求で、相手チームがフィールド・ゴールで得点したあと、合図のブザーを鳴らすことのできる時機は、スロー・インされたボールがコート内のプレイヤーに触れるまでである。	
65	フィールド・ゴールで得点したあと、タイム・アウトの請求のブザーを鳴らしたが、審判が合図に気づかずゲームが続けられ、何らかの方法でタイム・アウトの請求を審判に気づかせた。その間(審判が合図に気づかずゲームが続けられた間)、メイン・クロックは止めておいてよい。	
66	どちらのチームにも関係のない理由でゲームを中断したとき、次にゲームを再開する場合、中断されたときにボールのあった場所がフロント・コートかバック・コートに関係なく、ショット・クロックは継続してはかり始める。	
67	ショットされたボールがリングに触れ、ショット・クロックがリセットされたあと、次にコート内のプレイヤーがボールに触れた瞬間にあらたにショット・クロックをはかり始める。	
68	パーソナル・ファウルの罰則のフリースローの前に、A5に交代が認められ交代要員となった。そのあと最後のフリースローでヴァイオレイションが宣せられた。このときA5が交代し、プレイヤーとしてコートに入ることは認められない。	
69	A4がドリブルを終え、近接した防御側プレイヤーに故意にボールを当て、転がったボールをそのままA4がリカヴァーしたあと、あらたなドリブルをすることはできない。	
70	ショット・クロック・ヴァイオレイションの罰則のスロー・インは、“審判がゲームを止めたときにボールがあったところにもっとも近いアウト・オブ・バウンズの位置”で相手チームに与えられる。	

2015年度 ルール・マニュアルテスト 問題傾向

福岡県バスケットボール協会/審判委員会
2015/8/1

◆ 問題の内容が正しければ○を、誤りがあれば×を解答欄に記入して下さい。

No.	問題	解答
71	ジャンプ・ボールのとき、ボールがジャンパーにタップされたあと、そのボールがジャンパー以外のプレイヤーに最初に触れた瞬間に、ゲーム・クロックとショット・クロックを動かし始める。	
72	ショットされたボールがリングにはさまり、ジャンプ・ボール・シチュエーションとなった。オルタネイティング・ポゼション・ルールにより、引き続きそれまでボールをコントロールしていたチームのスロー・インで再開する場合、ショット・クロックは、24秒あるいは14秒にリセットする。	
73	オルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インのボールがA5(チームA)に与えられ、A5がスロー・インのボールを持っているときに、コート内のA6にファウルが宣せられた。次にオルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インを与えられるのはチームAである。	
74	チーム・ベナルティの表示器具は、1チームに、各ピリオド4回目のプレイヤー・ファウルが宣せられ、そのあとスロー・インのボールがスロー・インするプレイヤーにボールが与えられたとき、あるいは、フリー・スロー・シューターに1投目のボールが与えられたときに表示する。	
75	8秒ルールの秒数は、審判が独自の責任でかぞえる。	
76	5回のファウルをしたプレイヤーが5回目のファウルであることを宣せられずそのままプレイを続けてしまい、そのプレイヤーがさらにファウルを宣せられた場合は6回目のプレイヤー・ファウルとして記録し、その罰則を適用する。 また、この場合、コーチのテクニカル・ファウルとなる。	
77	コーチは、そのチームのプレイヤー、チーム・ベンチ・パーソネル、応援席のゲーム中の行為やふるまいに対して責任を負う。	
78	タイム・アウトは、テーブル・オフィシャルズがタイム・アウトの請求を審判に知らせるために合図器具を鳴らしたときに始まる。	
79	スロー・インをするプレイヤーの持っているボールが境界線をこえて内側(コート側)にあるときでも、コート内にいる防御側プレイヤーは、そのボールに触れてスロー・インを妨げてはならない。	
80	チームAのプレイヤーがショットしたボールがリングにはさまったとき、オルタネイティング・ポゼション・ルールによるポゼション・アローがチームAの攻撃する方向を示していた場合、チームAのチーム・コントロールはつづいている。	